『ONE BOOK ONE LIFE』別冊号1986年9月10日第1号発行

ろくおん通信 No. 136

発行日 2004年9月15日
発 行 盲人情報文化センター
録音製作係

聴いてわかる録音図書を作るために

「原本通り」に読むということ

久保 洋子

「原本通り」この言葉は音声訳者は何度も耳にし、口にしている言葉だと思います。原本通りに読めば内容が原本通りに伝わるものについては、問題ありません。しかし、原本には

・同音異義語、造語など文字を見ればわかるが声に出して読んでしまうとわからなくなるもの
・カッコなど様々な記号を使って書かれていて読みにくいもの
・図・表・写真など文字以外の情報

など、そのままでは読めないもの、読んでも内容が伝わらないものが、多くあります。

そんな時には音声訳者が工夫して、原本通りに内容が伝わるように、様々な処理をします。そうした処理をくり返しているうちに、「原本通り」という大原則が忘れられていることがあるように思います。

「原本通り」ということは、例え読まなくても内容は伝わるものであっても、原本通りに読むべきです。図の説明などで、説明文が原文と重複する時には、図の存在と説明を省略する理由をコメントします。文中の言葉（記号など）も原本通りに読みま

す。読むとわかりにくくなる時には省略しますが、これはあくまでも緊急避難、原本通りに読むとわからない時に限ります。

カッコの多い文章では、時にカッコをはずして文章を作りかえた方がよく伝わると思うこともありますが、これはルール違反です。

原本通りに読んでどうしても伝わらない時に、出来るだけ原文からはなれないで、なおかつ聞いてわかる読みを工夫してください。

次回から具体的な例を上げて考えていきたいと思います。

Q & A コーナー

◎●○△▼◇◆※※◆○

Q　Recdia（レクディア）が１０月１日に発売されると聞きましたがどんなソフトですか。

A

このソフトの価格は１２６００円（消費税込み）でサン・データセンターから発売されます。

体験版として、すでに一部で出回っていた「Refine」（リファイン）が正式販売にあたって名称を「Recdia」（レクディア）と変更して販売されるものです。

「Recdia」はカセットデッキに代わってパソコンで録音ができるように開発されたソフトで、録音の方法もカセットデッキから移行しても違和感のないようにカセットデッキ風の画面をみながら操作できます。

ソフトの特徴は、

①まわりの雑音をパソコン側で小さくすることができる

②音訳者の声は増幅し、大きすぎれば押さえる機能がある。

・録音音量を一定のレベルにあわせることができるので複数で読む雑誌などに便利

③後追い録音ができる。（ＰＲＳにはない）

④訂正などのはめ込み作業が簡単にできる。（訂正が長くなっても短くなっても

ソフトで調製してはめ込むことが可能）
⑤カセットデッキでの録音に近い感覚で録音ができる。
⑥マウスを使わなくてもキーボードのみで操作ができる。

ただ、このソフトはあくまでもデジタルで録音するソフトですのでそのままでは利用者は聴けません。利用者が聞けるようにするには、パソコンで録音したデータをカセットデッキに流してカセットテープに録音するか、デイジー編集ソフトの「PRS」か「シグツナ」でデイジー図書に編集する必要があります。

Q　Recdia（レクディア）をグループで使うにはどんな準備が必要ですか

A

先の回答にも書きましたようにこのソフトはパソコンを使ってデジタル録音することが出来るソフトです。それだけでは利用者は利用できません。

また、グループでは校正をどうするかなども考えなくてはなりませんので、カセットマスターを作成する為の必要な機材をあげます。

必要な機材は、
①録音する為のパソコンとRecdia（レクディア）のソフト
②データを校正する為のパソコン、またはＣＤプレイヤー
③完成したデータをカセットマスターに仕上げる為のカセットデッキ
などを準備します。

①のパソコンは、ＣＤに焼きつける必要がありますので、CDRのドライブが付いているパソコンが必要です。音声データはデータ量が大きくなりますので、ハードディスクの空き容量は少なくとも１０ギガ～２０ギガ程度は必要です。最近購入されたパソコンであれば容量はほとんど問題ないでしょう。容量が１ギガもないパソコンでは外付けのハードディスクを付け足す必要があります。カセット７巻程度の作品のデータ量は１．５ギガ程度になります。

②校正をするには、音声訳者がレクディアで作成したデータをCDRまたはCDRWに焼きつけ、校正者がレクディアのソフトの入っているパソコンで校正します。校正だけであればCDドライブがあればできます。また、レクディアのソフトが無い場合

は、データをＣＤに焼く時に「音楽CD形式」で焼けば、一般のCDプレイヤーでも聴いて校正することは可能です。但し、CDプレイヤーでの校正では途中で中断したら、次に聞く時は最初からの再生になるので、早送りで該当のところまで送るなどの不便さがありますので、レクディアのソフトの入っているパソコンで聴く方がベストでしょう。

③校正表で訂正作業が終われば、今度はカセットマスターを作成します。パソコンとカセットデッキをパソコンのラインアウト、カセットデッキのラインインをケーブルで繋ぎ、パソコンで再生したデータをカセットデッキで録音します。等速での録音になりますので、録音時間の分がかかることになります。

もちろん録音するデータはカセットテープの片面単位の４５分単位で録音する方が便利でしょう。

※どこでも、今後はカセットマスターに変換する作業が大変です。データをMOにコピーすれば、カセットに16倍速でコピーする専用コピー機が OTARIから発売されています。しかし、この専用コピー機は１００万円以上もしますし、今後の需要もあまり期待できないことから安価になることはないでしょう。グループでの購入は困難でしょうから、今後は、カセットにコピーするサービスも始まるのではと予想されます。

④デイジー図書を作成する場合、デイジー編集ソフトの「ＰＲＳ」「シグツナ」で、ＣＤに焼きつけたデータを取り込んで編集します。片面４５分のデータは約１分程度で取り込むことができます。

デイジー編集についての Q&A

Q　デイジー編集で「グループ」を使う時はどんなケースでしょうか

A

「グループ」の利用には二通り考えられます。一つは検索などで一定の単位で飛ばす、たとえば、都道府県順、ア行、カ行順などの検索する時にグループを使うと該当のところに飛ぶことができるので便利です。二つ目は、この図や表など飛ばして聞き

たい時などにもグループを使えば飛ばして聞くこともできます。よく写真などにもグループを使う方があります。飛ばすほどのこともないような短い写真にもグループを使うケースがありますが、あまり活用がないものに使う必要はないでしょう。しかし、写真などをまとめて読んだりしているような場合は、グループの意味はでてきます。

登場人物紹介などでも、一人ひとりの説明が長い場合はグループを使うといいでしょう。短い場合はワンフレーズで処理します。

グループがいいか、セクションで区切った方がいいかは原本によって、どう使うかなどを検討して決める必要があります。

各種 勉強会のおしらせ

１２月の録音図書製作グループ音訳研究会について

近畿視情協録音製作委員会主催の第１２回の「音訳研究会」は下記の内容で、近畿視情協のボランティア研修会が行われますので録音図書製作グループ音訳研究会は行いません。

研修会の内容は今後決まりますが、午前の部は校正や調査に関する研修、午後は、点字と録音の分科会が予定されています。

参加を希望されるグループは地元の図書館を通してお申し込みください。

平成１６年度
近畿視覚障害者情報サービス研究協議会
ボランティア研修会

日　時：平成１６年１２月９日（木曜日）
　　午前１０時半～１６時（受付１０時より）

場　所：日本ライトハウス盲人情報文化センター
　　９Ｆホール・６Ｆボランティアルーム

プライベート製作チーム勉強会（毎月第４水曜日　１時半～３時）

最近、問題集やパンフレットなどの音訳依頼が増えてきています。共同で製作した作品は、これまで３作品が完成しました。共同で製作する資料も増えています。また、デイジーでの製作希望も増えています。

今後は、パソコン録音の勉強会もはじめていく予定です。

はじめてグループの方も歓迎します。どうぞ勉強会にご参加ください。

１０月２７日（水）　・処理の研究
　　・プライベート図書依頼
１１月２４日（水）・処理の研究
　　・プライベート図書依頼
１２月２２日（水）・処理の研究
　　・プライベート図書依頼

利用者から製作依頼を受けている原本

『2005必携社会福祉士　専門科目編　』みずきの会＜社会福祉＞
※この本は共同製作予定の本です。グループでの製作を募集します。

『自閉症児の育て方　笑顔で育つ子どもたち』渡辺信一著　＜社会教育＞

『音声インナースキャン』タニタ著　＜取り扱い説明書＞